



### 「2020年 新年のあいさつ」

副院長兼看護部長 久々湊 智予

新年あけましておめでとうございます。休み中の勤務ありがとうございます。

去年は令和がスタートし、十二支の最初の干支「子」年でもあります。そこで、絵本「十二支のはじまり」より、あらすじを紹介したいと思います。十二月のある日、神様は動物たちを集めて言いました。

「来年の1月1日に私の家でごちそうするから来てください。12番目までに来るとご褒美があります」ねずみは早く神様の家に着きたいので、外で寝てました。ねずみが朝起きると、牛の背中で寝ていました。牛は足が遅いので早くに出かけたのです。神様の家に着くと、ねずみは牛の背中から飛び降りて、神様の家に1番につきました。牛は2番目でした、その後、他の動物たちも次々にやってきました。神様からご褒美の発表があり、1番目だったねずみのために、今年を「ねずみ年」にすると発表しました。その後ついた順番に「うしどし」、

「とらどし」…と決まり十二支と呼ぶことになりました。しかし、ねこはネズミに騙されて来なかったので、「ねこどし」はありません。このよう干支にまつわる話を聞いたことは初めてでした。今年が始まりの年です。いろいろなことに興味を持ち調べる。大切なことですね。疑問はそのままにしない。苦労して調べたことは忘れません。今年も継続したいものです。本年も宜しくお願いします。



副看護部長 長井 砂都美

新年あけましておめでとうございます。

去年は、ラグビーのワールドカップで日本中が盛り上がり、にわかラグビーファンになり、ルールもわからぬまま応援していました。試合終了の「ノーサイド」は「サイドが無くなる」といことで、「敵も味方もなく、お互いをたたえあう」のだということも改めて知りました。ワールドカップ直前のドラマ「ノーサイド・ゲーム」にも影響され、主人公が様々な困難を乗り越えて、チームを再起させる過程で、組織の中での自分たちの役割を考えながら取り組む姿、思いがけない困難に「人生ってつらいな」とつぶやき、それでも可能性を模索する姿に共感しました。

2020年は オリンピックの年、そして診療報酬改定の年でもあります。きびしい状況も考えられますが、ピンチをチャンスに変えられるよう、取り組んでいきたいと思ひます。

皆様のご協力、「One Team」～1つになって、お願いいたします。





## 新人看護師基礎研修：「SP研修」に参加して(12/3)

包括ケア病棟 山口

先日、模擬患者対応研修が行われました。患者役を前にし、第三者から対応を見られることはとても緊張しましたが、自分自身が無気なくとっている振る舞い、目線、話し方などの対応が患者にとって不愉快に感じられてしまうこともあり、患者との信頼関係を築く上で何が良くなかったのか客観的な意見を聞くことができました。目線を合わせ受容し共感する事。この学びを今後活用していきたいです。



## ラダーⅠ「3年目必須課題：在宅・施設見学」を終えて

3階東病棟 毛利

今回、3年目必修研修の一環で入院から受け持たせて頂いたA氏の自宅へ退院後の状況を見学させて頂きました。在宅訪問は看護学校の実習以来であり、急性期病棟に入職して病院内での様子しか見る事が出来ませんでした。退院後を見学できるという事はとても貴重な体験だと思いつつも興味をもちました。非侵襲的陽圧換気（以下BIPAP）の装着指導目的入院であり、入院時よりBIPAP装着とSTスタッフと連携を図り嚥下訓練を取り入れましたが、入院約10日間と短い期間の中で指導を行う事はとても難しく、自宅で装着して使用できるか不安が残ったままの退院で訪問看護導入し退院前カンファレンスを行って引き継ぎました。1週間後訪問した際は穏やかな表情をされておりマスク装着も問題なく行っており、数メートル離れたトイレにも手すりを使用し歩いて行くことができていました。サポート体制も家族の協力や社会資源を活用し、不安なく過ごされていました。今回の在宅見学研修を通して学んだ事は病棟では治療しながら生活する環境になって患者として見てしまうが、在宅では生活しながら治療しているひとりの生活者であり、自宅に帰る大切さを改めて感じる事が出来ました。病棟で私達ができる事として、まずは自宅に戻れるようADL低下を予防し、入院時からの生活環境の情報収集から治療ができるよう支援していく事が大切であると学びました。

## ラダーⅡ「研究」研究計画書作成に取り組んでみて

外来 兒玉

講師：地域医療連携室 今村 千佳子

看護研究は難しいと身構えてしまい、苦手意識もありましたが、看護研究に取り組むにあたり受講しました。まずは講義を受け、研究計画書を作成することで看護研究の半分以上が完成すること、砂時計モデルに沿って計画を立てていくことの重要性について学びました。

その後、実際に研究計画書の作成に取り組みました。業務に視点をのけた内容になってしまい、方向性が分からなくなることがありました。講師より、研究は患者のためのものであり、患者のために出来る事はないかと考えながらテーマを決定していく必要があると指導を受け、何度も資料を見ながら自分の研究計画書を修正し、仕上げることが出来ました。

やはり現在も看護研究に対しての苦手意識はありますが、「患者のため」という事を忘れずに看護研究に取り組んでいきたいと思えます。

## ラダーⅢ「管理：SWOT分析・発表」研修を終えて(11/19)

回復リハビリ病棟 神田

講師：3階東病棟師長・認定看護管理者 久留須 加寿美

普段から、自分の周囲への目配りや問題の抽出、解決まで自分で考えたりするのは苦手な方でありましたが、部署でもリーダー的な立場となり、病棟内の事細かいところまでの目配りや問題解決を率先して行うことが必要となりました。初めてこの「SWOT分析」を知ったのは数年前でしたが、その時は自分の中で理解できないまま時間が過ぎてしまいました。今回ラダー研修としてこのSWOT分析が学べると思い、参加した。自分の考える自部署の問題点を実際に分析し発表を行いました。問題を分析するという事は、現状をそのまま把握し列挙する事が大事であり、自分の目の前の事だけではなく、大きな視野を持ちアンテナを張っていくことが重要であると分かりました。表の作成が目的ではなく、分析を用いて日常業務の中で活用し問題が抽出され、改善・発展させることが出来るように、日頃から心掛けていこうと思えます。



講師：総合リハビリテーション部長 長嶺 英博

今回の研修で力のいらない基本動作パターンと介助方法、楽な移乗動作、歩行誘導、免荷患者さんにおける移乗動作などを受講しました。以前、介助を行うときは、少し自分のペースで患者さんに接していたこともあり、これからは受講したことを思い出しながら、環境調整の大切さと車椅子の位置、患者さんに合った対応を念頭におき、さまざまな場面に立ち上がり動作の介助時は、重心が支持基底面に乗ったら体幹の進展を促して重心が上方へいく介助を提供できるようにしていきます。



## 院外研修



### 日本自己血輸血学会 学会認定自己血看護師制度 資格取得について

手術室 統所

2019年10月25日から10月27日の3日間、自己血輸血看護師の認定研修に参加しました。自己血貯血とは手術などの出血に備えてあらかじめ自分の血液を献血のように採取し貯めておくことです。同種血も安定的に供給されていますが副作用の心配があります。自己血輸血ではその心配がほとんどないので条件が合う場合においては自己血輸血が勧められます。手術室看護師で輸血に携わる機会も多いことからこの研修に参加しました。資格取得後まだ数例しか担当していませんが手術に向けて準備をしている段階の患者さんと関わることにもメリットであると感じています。学んだ知識を深め技術を磨き、安心安全な周術期看護を実践していきたいと思えます。

### 日本看護協会主催



### 「医療安全管理者養成研修」を終えて

4階東病棟主任 満園

今回、医療安全管理者養成研修・eラーニング及び集合研修プログラムを受講させていただきました。eラーニング41時間を、5月ぐらいから11月にかけて、自己学習を行い参加しました。内容は、医療安全の基本からKYT、インシデント・アクシデント事例・RCA分析・と幅広く一回視聴しただけでは自分の中に落としこむまでに時間がかかり、再学習しようと思っています。また、医療安全とは、看護部だけではなく病院全体で医療安全文化を構築していかなければならないと再確認できました。ONE TEAMで頑張っていきたいと思います。

### 「認定看護管理者教育課程：セカンドレベル教育」を受講して



包括ケア病棟師長・救急看護認定看護師 平

地域医療連携室 副室長 瀬戸口

日本看護協会主催 「認定看護管理者教育課程：セカンドレベル研修」に2019年8月29日（木）～11月1日（金）のうち31日間に参加しました。

セカンドレベル研修の教育目的は、「看護管理者とし基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。」であり、そのために必要なヘルスケアシステム論、組織管理論、人材管理、資源管理、質管理を学び、今年度より統合演習2施設、2日間の実習を実施しました。

講義は、全国でも有名な講師を招き、日ごろ看護管理者として実践している看護の必要な知識やデータの重要性・活用方法を学ぶ機会となり、今後の管理への重要なヒントとなったとともに鹿児島全域から参加した、看護管理者とのネットワークを築くことができたことが、今回の研修で大きな財産となったと感じています。今回の学びをこれからの看護管理に生かしたいと考えます。

日本看護協会主催 「認定看護管理者教育課程：セカンドレベル研修」に31日間参加しました。問題の前であたふたしていたが、それでは解決しません。問題解決・分析の手法を学び、実践する前後の評価をするためには、数字・データが大切であることも、交渉をするときには交渉術が必要であることも、これまで直球で実践することが多かった自分にとってはすぐ実践できる学びでありました。

自分が何を知っているかももちろん大切なことですが、鹿児島県内の同じ立場で悩む仲間ができたことも大きな財産になると思えた時間でした。

本を読んだり、文章を書いたりする機会に恵まれ視力障害（老眼）が進んできた状態では辛いこともありましたが休むことなく研修を修了することができました。ありがとうございました。

## マイブーム

回復リハビリ病棟 遠矢

そこまでマイブームというほどではありませんが、映画鑑賞が好きでたまにフラッと気分転換に映画鑑賞に出かけます。友人と出かけたり、1人で出かけたり……。この冬の盛り上がりはやはり《アナと雪の女王2》でしょう。前回の作品も観ていたので新作もとても楽しみにしていました。そしてやはり期待通りの作品で、鑑賞後しばし余韻に浸っていました。前作もそうでしたが、今回の作品も家族愛に溢れ、改めて家族の在り方を考えさせられました。家族のためなら自分の身に何が起ころうとも苦難に立ち向かう……。自分がそのような立場だったらどうするだろう……。きっと同じ思いだろうなと思いを巡らせる事でした。たかがアニメと思われる方もいらっしゃると思います。まだ鑑賞されていない方は一度騙されたと思って映画館に行かれてみてはいかがでしょうか。きっとファンタジーの世界へといざなってくれるはずです。

## ミニナラティブ

外来 有村

救急外来での体験です。60代男性、地下30mの作業場で意識レベルの低下あり、1時間以上の蘇生を継続されておりましたが反応無く、心肺停止状態で救急搬入されました。

仕事の都合で他県より鹿児島へ来られ、家庭の事情によりご家族とは疎遠状態との情報があり、付き添いは会社同僚の方々でした。緊急連絡先は娘さんであり、会社の方より連絡するも連絡取れず、何度掛けるも連絡取れない厳しい状況でした。

診断の結果、これ以上の蘇生は困難と判断され、会社同僚の方へ説明がありました。通常ならご家族の到着を待ちますが、それが出来ず会社同僚の見守り中の看取りとなりました。何とかしてご家族（娘さん）と連絡が取れないか、会社の方やソーシャルワーカーの協力も得ながら連絡があることをただ待ち続けました。私もつい最近身内を亡くしたばかりであり、最期はご家族の元へ帰してあげたいと強く思いました。

娘さんではなく、息子さんと連絡が取れたのが夜遅くだったようです。翌日の朝出勤した時に知りました。会社や多職種との連携などにより、ご家族と連絡が取れご家族の元へ帰る事が出来た事に心から良かったと思える体験でありました。

今後も患者さんに寄り添い、多職種との連携を取り、より良い看護を提供できるように努めていきたいと感じました。

## 編集後記

Happy  
New  
Year

「2020年」新たな年を迎え、みな様どのような目標をたてられたでしょうか。心新たに目標達成に向けて取り組んでいきたいですね。

2019年度末も近づいて来ております。ラダー研修課題e-ラーニング未受講の方は、早めの受講をお願いします。  
(田口)

